令和７年度「特色ある学校づくり事業」実践事例

地域・学校の環境

本校区は、４００年以上の歴史をもつ伝統ある窯業の里であり、三川内山･江永･木原の三皿山を中心として、多くの陶工が、「三川内焼」の生産にあたっている。陶工たちは、平戸藩御用窯として育まれてきた窯業文化を受け継ぎ、伝統工芸品である「唐子絵･花鳥山水･透かし彫」等の技術でつくられる「三川内焼」の作陶と開発に励んでいる。

本校は、豊かな自然にも恵まれ、歴史と伝統を受け継ぐ、すばらしい教育環境の中にある。本校では、「あったか三川内」を合言葉に、伝統ある学び舎と家族的な温かい雰囲気の中で、素直で純朴な児童が仲よく健やかに学校生活を送っている。地域住民の学校教育に対する期待と関心は非常に高く、学校の教育活動に対し大変積極的に、熱心な協力や支援をいただいている。

地域の関係機関･団体と協力･連携を図りながら、学校･家庭･地域が一体となって、様々な取組や諸活動を展開し、「地域と共にある学校」「ふるさと三川内を愛する絆づくり」を推進している。

本年度もこれまでの行事・活動の内容を見直し、工夫を加えながら、地域住民・家庭と連携を図りながら取り組んだ。

テーマ　「郷土を知り、郷土を愛する心豊かな児童を育てる」

目　的

○　郷土の伝統産業である窯業文化を知る学習
○　郷土の豊かな自然環境を知り、自然の浄化作用を学ぶ環境学習
○　地域の人々との関わりを通した福祉学習
○　豊かな人間性を育む基礎となる学力の充実
○　学校を拠点とした地域教育力活用による「地域と共にある学校」づくり

実践内容

１「交流」体験活動…地域の方々とふれ合う活動に、積極的に取り組んだ。

① **自然体験学習**…３年生は、小森川の水生生物を調べ、自然環境を追究する課題を設定した。水生生物に詳しい講師を招いて、小森川に生息する生き物や自然環境を保全する大切さについて教えていただいた。意欲的に生き物探しに取り組み、学んだ内容をタブレットでまとめ保護者・地域の方に発信することができた。自分たちが住んでいる三川内の自然の豊かさを再発見することで、地域のすばらしさに関心をもち、郷土に愛着をもつ心が高まった。

② **三川内っ子ふれあいタイム**……１１月１４日実施。初めに「オープニングセレモニー」を行い、各学年の活動内容のアピールや３年生がアルカス佐世保で披露した音楽発表会の歌とダンスを披露した。午前中は、第１部・第２部と活動内容を分け、学年ごとに工夫を凝らした内容を実施した。地域５６名　保護者１２１名合計のべ１７７名の参観があり、地域・家庭の関心の高さが伺えた。また、健全育成会等より５名と地域講師２名の協力を得ての活動を行った。各学年の内容は以下の通りである。

＜１・２年生＞：おもちゃで遊ぼう「三川内わくわく広場」

自分たちが生活科や図工科の学習で作った「手作りおもちゃ」や「楽しいおもちゃ屋さん」（輪投げ・的あて・ボーリング・動くおもちゃ・小さなおもちゃ屋さんなど）を体育館で店を出し、地域の方々や保護者、園児等と一緒に楽しく遊んだ。お客さんである地域の方や保護者の方に賞賛や助言をいただくことで、子どもたちはより良い出店にしようと工夫しながら活動できた。参加した人には、手作りの景品や記念品を用意し、世代を超えた人と人との温かい交流の場となった。

＜３年生＞：「親子でしめ縄リース作り」

地域の達人に指導していただきながら、親子でしめ縄リース作りに取り組んだ。事前に個人で用意していた飾りを使い、思い思いのリースを制作した。藁を上手に編み込む達人（地域の方５名）の技に魅了されながら、意欲的に１つだけでなく複数個制作する児童もいた。更に地域への愛着を増した時間となった。

＜４年生＞：「福祉体験学習発表会」・「親子で焼き物絵付け体験」

９月~１１月に社会福祉協議会の協力のもと福祉体験学習を実施した内容を、タブレットを活用してスライドにまとめ発表を行った。アイマスク体験や車いす体験、妊婦体験を行った後、地域に出て実際に福祉の工夫について探した。調べたことについて、コーナー毎にタブレットを用いて感想を交えながら発表を行い、社会福祉の大切さについて学びを深

めていた。第 2 部では、地元の窯元さんの指導を受け、皿の絵付けを行った。絵付け体験は三川内ならではの活動であり、三川内の伝統産業のすばらしさを直接指導していただく貴重な体験となっている。親子でのふれあいの時間でもあったが、親子共に大変集中して絵付けに取り組むことができた。自分たちが絵付けをした焼き物が戻ってきたときの満足した嬉しそうな表情からも、「三川内焼き」に対する愛着が更に増していた。

＜５年生＞:「おにぎり・味噌汁作り」

地域の方のご協力・ご指導をいただきながら、5 月の種まきから始まり、6 月の田植え、10 月の稲刈りといった収穫までを体験した。学習を通して米作りの大変さを実感し食に対する思いを深めた。ふれあいタイムでは、収穫したお米を使って、地域の方々や保護者に自分たちが作った「おにぎり」と「味噌汁」を振舞う活動をした。6 月に味噌店の方を講師に招いて作った手作り味噌や育てた大根を具として用いたことで、児童はとても意欲的に活動に取り組んだ。食された方々からは「おいしい」と大好評で、地域の人を笑顔にすることができ、児童らの誇らしげな表情は充実感・達成感に満ちていた。農業体験や味噌作りなど、活動全般を通して地域にある「人・もの・こと」の豊富さやつながりの大切さを学んだ。

＜６年生＞　「先輩から学ぼう！わたしたちの三川内！」

ふれあいタイム第１部では、小学校の学びの中で発見してきた「三川内のよいところ」「誇れるところ」や「課題」について、グループ毎に調べてきた内容をタブレットを用いて発表を行い、保護者や地域の方々に発信した。第２部では、若手陶工として活躍中の卒業生である窯元さんを講師として迎え、「将来の三川内」についてディスカッションを行ない、地域の将来について真剣に考えることができた。本校出身の先輩との交流を通して、新たな考えに気付くとともに、現状から課題を発見することができた。発表に向け相手意識を高め、伝えたい内容を精選、整理するなどの情報整理をする力、表現する力を高めただけでなく、地域を深く調べる活動を通して更に郷土愛も深めることができた。

③「遊びの達人塾」

本年度は１１月に１回の実施とした。健全育成会１０名、PTA１０名の協力のもと、こま回し、竹とんぼ、ハマ投げ等、昔遊びを中心に縦割り班で遊びのコーナーを回り地域・保護者に指導を受けながら楽しく遊ぶことができた。中でもハマ投げは、窯業が栄えた地域の伝統の遊びであり、児童は特色ある遊びを楽しんでいた。

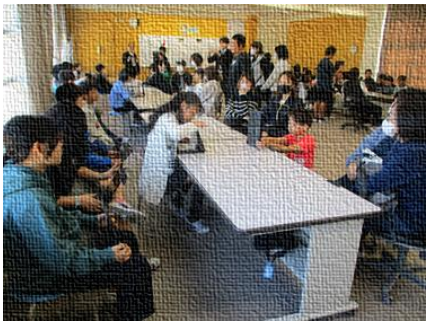
オープニングセレモニー

手作りおもちゃの出店

達人のしめ縄づくり

絵付け体験

おにぎり・味噌汁作り


三川内のよさを伝える

④　学校図書ボランティア「WAKU　WAKU おはなし隊」…毎週火曜日８：２５～８：４０各学級へ入り、読み語りをしていただいている。学年に応じた内容の絵本を表情豊かに読み聞かせながら、時折子どもたちに質問を投げかけたりと、子どもたちを本の中の世界に導いてくださっている。子どもたちは、火曜日を楽しみにしており、読書に親しむ児童が増えている。

２　「ふるさと三川内」体験探究活動

①　三川内の伝統工芸である三川内焼について学年を越えて探究する。課題を見付け、調べ、まとめる活動を通して、ふるさと三川内のよさを改めて実感する学びとなる。２年生「町たんけん」、４年生「焼き物絵付け体験」、６年生「伝統産業会館・窯元職人による講話」の体験学習を通して地域の中の三川内焼きについて学んだ。また、全校で「唐子絵大会」を開催し全児童が思いを込めて唐子焼の絵柄を描き楽しみながら、三川内が誇る伝統工芸に親しんだ。地元三川内焼きの高度な技術や伝統工芸のすばらしさに気付き関心を高める子が増えた。高学年になるにつれ主体的な学習へと学びが高まっている。

３「栽培・収穫」体験活動…児童は豊かな自然の恵みを味わい、地域の「達人・名人」から、いのちの尊さや生産の努力や苦労について学んだ。

①　校区内水田での米作り体験活動…５年生が、地域の「米作り名人」の方々に熱心に御指導いただき、種まき・田植え・稲刈りまでの米作りを体験することができた。学級役員さんとの連携を図り、保護者と協力して実施した。保護者自身が米作りが初めてという方も多く、子どもたちと共に米作りの大変さを実感していた。裸足で田に入り田植えをしたり、カマを使って稲刈りをしたりすることで米作りの苦労を知り、改めて「食」に対する感謝の気持ちをもつことができた。

②　学校園でのサツマイモ栽培活動…１・２年生は、学級役員さんを中心に、親子で芋さしから芋掘りまでを体験し、収穫の喜びを味わうことができた。

田植えの様子

達人の説明

稲刈りに挑戦

たくさんのお芋がとれました

４「おもてなしの心」「かかわり合い」で心豊かに

① 手作りのおにぎりと味噌汁…５年生による１１月のふれあいタイムでの取組。児童が作った米と味噌を使って、心を込めて「おにぎりと味噌汁」を作り、米作りから、脱穀までを指導していただいた地域講師や保護者を招待し感謝の気持ちで「おもてなし」をした。今年も、たくさんの地域の方に来ていただき活動体験の喜びと感謝の気持ちを伝えることができた。

② 異学年とのかかわり…毎日の集団登校や、「縦割り遊び」「花いっぱい運動」など、異学年と関わる活動を実施することで、相手の気持ちを察し、考えることができる豊かな心を育んでいる。今年度も、「花いっぱい運動」で使用する花苗を５・６年生が種から育てていたが、厳しい残暑の影響でなかなか発芽・成長させることが難しく、自然の厳しさと温暖化に見られる環境の変化を感じていた。また、「縦割り遊び」では、高学年の子どもたちが企画・運営の仕方に慣れ、主体的に運営することができるようになってきている。

花いっぱい運動説明

花いっぱい運動

三川内小学校では
「あったか三川内」を合言葉に
三川内の地に足を着け、三川内を愛する
心豊かな児童を育てています！